

2016年度・第2回アジア水中考古学研究所東日本会員連絡会（研究報告会）

「学生による水中文化遺産研究」（卒論・修論研究報告会）

2016年11月13日（日）開催

時間・論題・発表者

1. 13:10～13:35 「縄文時代の櫓の集成・分類」

佐藤 正史（中央大学 文学部史学科 4年）

2. 13:35～14:00 「鎌倉の海岸漂着陶片にみる漂着物と周辺遺跡の関係性」

田中 万智（奈良大学 文学部文化財歴史学科 卒業）

3. 14:00～14:25 「日本最古の築港港湾「和賀江嶋」に関する考察

－保存の意義と課題について－

柏崎 喜重（奈良大学 文学部文化財歴史学科 卒業）

4. 14:25～14:50 「長崎県松浦市鷹島町における元寇船隔壁板の復元」

有木 瑞紀（東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科海洋環境保全学専攻 修士2年）

－休 憩－

5. 15:05～15:30 「遣唐使船航路における水中文化遺産の取り扱いをめぐる国際法的考察

－最近の中国の政策を含めて－

白 亜寧（東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科海洋管理政策学専攻 修士2年）

6. 15:30～15:55 「葦山反射炉の文化財的価値について ー江川太郎左衛門英龍を中心にー

三枝 光香（東京海洋大学 海洋政策文化学科 4年）

7. 15:55～16:20 「小笠原諸島父島近海における戦争遺跡としての沈没船

ー第50号駆潜艇を素材にー

吉澤 侑里子（東京海洋学部 海洋政策文化学科 4年）

8. 16:20～16:45 「文化財行政における米国軍艦エモンズ号ー外国沈没船の取り扱いー

三浦 万季（東京海洋大学 海洋政策文化学科 4年）

16:45～17:00 質疑応答